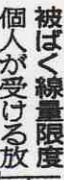


# 低線量被ばくで発がん

05.7.1

## 米などの国際調査 高い危険性を指摘

【ワシントン30日共同】吉本明美】放射線被ばくは低線量でも発がんリスクがあり、職業上の被ばく線量限度である五年間で百ミリシーベルトでも約1%の人が放射線に起因するがんになるとの報告書を、米科学アカデミーが世界の最新データを基に三十日までまとめた。報告書は「被ばくには、これ以下なら安全」と言える量はないと指摘。



**被ばく線量限度**  
個人が受ける放射線の被ばく線量の制限値。国際放射線防護委員会の勧告に基づき、各国が導入。日本では放射線障害防止法で定められている。一般人は1年間で1ミリシーベルト、医療現場にいる放射線業務従事者は1年間で50ミリシーベルト、5年間で100ミリシーベルトとされる。自然放射線と、エックス線検査など医療で浴びる放射線は含まれない。日本の商業原発で2002年度の1年間に作業員が浴びた線量の平均値は1・3ミリシーベルト、最も多く被ばくした作業員は19・7ミリシーベルトだった。

国際がん研究機関などが日本を含む十五カ国の原発作業員を対象にした調査でも、線量限度以内の低線量被ばくで、がんの危険が高まることと判明した。

低線量被ばくの人体への影響をめぐる「一定量までなら害はない」との主張や「ごく低線量の被ばくは免疫を強め、健康のためになる」との説もあった。報告書はこれらの説を否定、低線量でも発がんリスクはあると結論づけた。業務や病気の診断や治療で放射線を浴びる場合でも、被ばく量を低減する努力が求められるとされた。

従来より高リスク  
草間朋子・大分県立看護科学大学長（放射線防護）の話 原発作業員の調査は、低線量の放射線を長期間、被ばくした人を対象にした初の大規模な調査だ。低線量でも影響があること、さらに、瞬間的に被ばくした広島、また、百ミリ以下でもリスクはあると指摘。十ミリシーベルトの被ばくになる全身のエックス線CTを受けると、千人に一人はがんになる、とした。

また、国際がん研究機関などが約四十七千人の原発作業員らを長期追跡した調査では、百ミリシーベルトの被ばくにより、がんの危険が約10%上昇するとの結果が出た。調査対象の平均累積被ばく線量だった約十九ミリシーベルト程度でも、がんの死亡率がわずかに高まる可能性が示された。

それによると、百ミリシーベルトの被ばくで百人に一人の割合でがんを発症する危険が判明。この線量は、胸部エックス線検査なら千回分に相当するとい

島、長崎での調査を基にした従来の評価より高いリスクを示していることには興味深い。カナダなど一部の国のデータに引張られて高くなった可能性はあるが、低線量では人体に影響がないと言っているのは難しくなったのではないか。